議長定例記者会見　会見録

日時：令和６年１０月２１日　１０時３０分～
場所：全員協議会室

１　冒頭発言
２　質疑項目
〇第一会派の変更について
〇同性婚の法制化に係る議論の促進を求める意見書案の採決について
〇衆議院議員総選挙について

１ 冒頭発言
（議長）皆さんおはようございます。ただ今から、１０月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は、発表事項はありませんので、９月定例月会議を振り返って一言述べたいと思います。９月定例月会議では、補正予算１件や条例案６件、企業会計決算の認定議案等の審議・採決を行うとともに、県民の皆さんから提出された多くの請願について、請願者に参考人として委員会にお越しいただくなどして慎重に審議･採決し､これらの声を国に届けるため、１２件の意見書を可決いたしました。また、本会議や委員会等では、それぞれの会派や議員にお寄せいただいた県民の皆さんの意見を踏まえて、執行部に対して、スピード感を持ってさらなる物価高騰対策等を講じることの必要性を指摘するとともに、本県を取り巻く情勢の変化等を踏まえて、県政運営全般について執行部の考えをただし、足らざる点を指摘するなど、県民の皆さんの暮らしや仕事を守り、より良くしていくための議論を行うことができたと考えています。後者については、例えば、主なものとして、次年度の三重県行政展開方針案に関する議論では、昨年度、特別委員会が県内関係団体や有識者等の意見を踏まえて提言した食料自給率向上の取り組みが不十分であるなどの指摘、また､「三重県子ども条例」改正の中間案や「三重県子ども計画（仮称)」について、子どもに関する政策討論会議の提言に込めた私たち議会の思いが十分に踏まえられているかといった視点で議論、さらには、子どもや障がい者への虐待を許さないための議論や、能登半島地震支援活動の気づきを踏まえた南海トラフ地震対策の強化に向けた議論などが挙げられます。このほか､「みえ高校生県議会」での意見・提案について、政策企画雇用経済観光常任委員会では参考人招致を行って協議するなど､全ての行政部門別常任委員会で調査や議論を行い、高校生たちの提案を具体的な形にする第一歩を踏み出すことができました。この９月定例月会議の後は、今週行われる予算決算常任委員会から令和７年度の

当初予算等の議論が本格化しますので、県民の皆さんからの負託に応えるべく、その役割をしっかり果たしていきたいと考えております。私からは以上です。

２ 質疑応答

〇第一会派の変更について

（記者）幹事社からお尋ねします。冒頭の発言で質問ございますか。よろしいですかね。冒頭の発言では言及がなかった定例会中の出来事についてお尋ねしますけれども、第一会派が変わりましたということになりましたですね。それの受けとめと、今後またそれの対応あると思うんですけど、どのように進めていかれるかということをお尋ねします。

（議長）下野県議が今回辞職されたということで、数としては２０対２０っていうことなんですけれども、これまでの慣例というか、期数によってということで、今回第一会派が自由民主党、そして第二会派が新政みえに入れ替わったということでございます。いろいろ議会のこれまでの慣例があって、第一会派が議場で何ていうんですかね右側に陣取るとか、なんかそういうのがあるようですので、そういうことは大切にしていく必要があるのかなと思っていますので、両会派で話し合いをしながら、今までの慣例も踏まえて進めていくことかなと思っています。私の経験では、２０数年の中で一度だけ新政みえが第二会派になったことがありまして、そのとき以来なので大分過去になるので、議席の場所が久しぶりというか、かなり遠い昔ですけれど、変わるなってことは個人的には思っていますけれども、そのことは懐かしくというか、そういったことがあったな、なんてことを思い出しますが、これは数がどっちが多いとか少ないとかではなくて、三重県議会の場合は、議会として、それぞれ政策論争しながら、一枚岩として知事と対峙していくっていうのが三重県議会のこれまでの歴史でもあり、今の取り組みでもありますので、そういった取り組みを、どちらが第一会派になろうが、大事にしていきたいと思っています。

（記者）副議長もこれについていかがでしょうか。

（副議長）先ほど議長がおっしゃられたとおりですけども、人数的には２０対２０っていうことですけども、これまでの慣例で、本会議場の入れ替えですよね、そういうのは、さっきおっしゃられましたけど大切にしていきたいと思いますけども、あくまで数の問題っていうことじゃなくて、政策、それからいろんな協議、これまで同様にやらせていただいて、しっかりと知事と執行部に提言をしていける、そういう体制を維持していきたいと考えておるところでございます。

（記者）一方で、会派が、同数で第一会派がそういった慣例があるということですけど、差配されると。こういうケースというのは、これまで県議会の中であったんでしょうか。

（議長）過去にどうなんですかね。古く、同数で第一会派は、そういう事例はあったんですか。

（事務局）過去、同数になったことはございますので、それによる入れ替わりっていうのもあるわけですけども、第一会派と第二会派が入れ替わるってことは先ほど議長が言われていたようにあるわけですけども、同数になったこともそれはございますけれども。

（記者）慣例があるということですので、過去にもあったのかなと推察するところではあるんですけど、この機会にちょっと一つぜひご意見いただきたい。

（議長）慣例っていうか、おそらく第一会派と第二会派が入れ替わることだけじゃなくて、議会全体のルールというか慣例として、数がやっぱり多数決の論理ですので、多い少ないってのは当然あって、同じ場合にどうするかってことで、やっぱり期数を重視するっていう考え方が、おそらく議会の全体として多分あるのかなということかもしれませんし、過去にちょっと例があったかどうかまでは、この三重県議会の長い歴史の中で、どこまでさかのぼれるのか分かりませんけど、一度また確認もさせてもらいます。

（記者）さほど実態に影響がないにしても、この期数でもって、何ていうんですかね、第一、第二というふうな位置付ける考え方になっていると。例えばその根拠であったりとか、ここの是非みたいなところって何かお考えになったりとか、課題としてはないのかなという気もするんですが。

（議長）先ほど申し上げましたように、確かに第一会派、第二会派という言葉がある以上は、どっちが第一なのかというので言ったときの決め方ということで、これまでのそういう決め方があるのかなと思っていますが、どちらかというとそれがあまり重要ではなくて、議会としてやっぱり一枚岩でしっかり議論できる体制をどうつくっていくかということだと思っていますので、別に第一になったからどうとか、第二だからどうということではないかなとは思っています。ただ、今ご指摘いただいたように、何らかの根拠が過去にあって、そういう、慣例って私申し上げましたけれども、そういったこれまでのがあるので

そのルールに従ってやりましょうということは、議会としても大事なことだと思って、今回もそのような形で第一会派は自民党、第二会派は新政みえということでいっていますので、そのあたりの根拠みたいなのは、ちょっと過去の例も一度事務局で確認してもらうようにします。ただ、先ほど言いましたように、どっちがいいとかではないので、ただ、代表質問で、どっちが先にするとか、やっぱりそういうようなことがあって毎回ジャンケンで決めるというのも一つかも分かりませんけど、それよりも第一会派が一番最初にするっていうふうに決まっている以上は、どっちかを第一と言わないといけないのかなということかなと思っています。

○同性婚の法制化に係る議論の促進を求める意見書案の採決について

（記者）分かりました。ありがとうございます。よろしいですかね。もう一点だけ。いわゆる同性婚の意見書の関係です。賛成少数と言ったらいいのかな、否決という結果になりましたけれども、一部退席の方もいらっしゃって、こちらで計算したところ、仮定の話ですけど、退席がなければ、議長の采配だったのかなというような気もしておるわけなんですけど、もしこれ、何か受けとめ、コメント等あれば。結果と全体的に。

（議長）採決で退席の方もあったということで、賛成、反対と分かれて、否決ということでしたけれども、それぞれの議員のお考えがあってのことですので、それはそれとして、そういうふうに受けとめたいなと思っています。先ほどお話しいただいた、同数になった場合ってことですけど、前日の議会運営委員会で、各会派の意向が確認されて、採決などの議事運営など決めておりますので、それに基づいて議事を進めた結果、否決ということですから、その仮定の話というか、そういうのはなかなか私が答える立場じゃないのかなと思っています。

（記者）仮定の話はお答えできる立場ではなかったとしても、ある程度そうなった場合の仮定の想定はしていらっしゃったんじゃないかなと思いますけど、そういうわけでもありませんでしたか。

（議長）仮定の想定はしていたかどうかというと、そんなにちゃんとしていたかどうかというのはあれですけど、ただ、これも慣例とかというのはやっぱり確認はする必要があるなということで、過去の事例を見ると、本会議ではやはり一緒になった場合、同数になった場合の、基本的な議長の裁定は現状を維持する方向に決定するというような、そういった考え方というのがずっとあるということは聞いていますので、そういうことがもし起こった場合には、やっぱり大事にしていく必要があるのかなというのは思っていました。

〇衆議院議員総選挙について

（記者）冒頭のご発言以外でも質問があればいかがでしょうか。発表項目外ということで、ちょっと一つだけ。衆院選が公示されておって今週末、投開票ということになるわけですけれども、お二人とも立場がおありなんで具体的な活動はどうされているのかなというのもありつつですけど、一つコメントいただくならば、投票率のことはおそらくあると思います。短期決戦なので、どこまで周知されるのかと。県選管の話を聞くと、バタバタでなかなか周知啓発も、していないというわけではなくちょっと難しい部分もあったりとかするようですけど、どのようなことを期待されるか。投票率、あとはそういった投票行動も含めてなんですけど、それぞれご所感ありましたらお願いいたします。

（議長）選挙のたびに、これは衆議院選挙だけではなくて、われわれの統一地方選挙もそうですけれども、やっぱり投票率というのは下がってきているということは言われていますので、特に若い世代にどのように関心を持ってもらうかっていうのも非常に大事だということも言われていまして、当然今回の選挙でも同じことは言えるのかなと思っています。ですので、できるだけ多くの方が選挙に行っていただけるように、当然啓発ということも大事かも分かりませんが、やっぱり候補者がそれぞれ自分の思いをしっかり訴えて、有権者の方に届くような、そういった選挙戦をやっていただくことで投票率も上がっていくと思っていますので、しっかり争点も含めて候補者がしっかりそれを述べていただく選挙にしていただけたらなと思っています。

（副議長）ほぼ議長と同じなんですけども、昨今の投票率の低下というのは大変重要な問題なので改善していかなくてはならないと思っています。今回の選挙に関しては、期日前投票の訴えとか、そういったことも各候補者が行っていくことによって多少でも上がっていただければなという期待は持っておりますけれども、なかなか政治に対する関心というのが薄れつつある中で、どこまで伸びるのかっていうのはいささか疑問なところがあります。それから、われわれの選挙のことを考えますと、一つは投票所の問題があって、地域によっては車で行かなきゃいけないところとか、そういったところでなかなか投票活動する行為というのが難しいような地域も多々あるので、そういったところの整備に関しては今後いろいろと考えていかなきゃならんのかなと思っております。

（記者）念のためお二人ともちょっと確認をさせていただきます。いわゆる選挙活動、特定の候補者への協力とか、例えばそういった街頭に一緒に立ったりとか応援演説をしたりということは、二人ともそれぞれ所属の会派があってと

いうことですけれども、今回の衆議院選ではそういうことはしておられるのか、される予定あるのか、ないのか。

（議長）これまでの事例も確認させていただいて、副議長と相談もさせていただいて、やはり中立の立場というのは重要だということがありますので、特定の方のところでマイクを持って応援演説をしたりとか、そういうことはお互いやめておきましょうということをお話をさせていただきましたので、そういったことは今のところしておりませんし、これからもすることはないと思います。

（記者）副議長も同じでございますか。

（副議長）同様です。

（記者）その他、質問ございますでしょうか。よろしいですかね。では、終わらせていただきます。ありがとうございました。

（議長）どうもありがとうございました。

（　以　上　）　１０時４４分　終了